

幼 兒 の 教 育

昭和七年十一月一號

うっかりしてゐる時

その人の味はうっかりしてゐる時に出る。

うっかりしてゐる時に出る味がなくては、眞にその人のもち味とはいへない。

教育の一番ほんとうのところは、屢々、その人のもち味によつて行はれる。まして、相手が、謂はゞ、最もいゝ意味で始終うっかりしてゐる幼児達である場合、我々のうっかりしてゐる時が如何に教育的に大切なはたらきをなしてゐるかは考へらるゝ以上であらう。

うっかりいふ言葉、うっかりする動作、出あひがしらに、うっかりと見せる顔。その時出る我々のもち味こそ……。

といつて、いぐらいゝもち味の人でも、うっかりばかりしてゐてはなるまいし、さてまた、わがもち味をつゝしまふとして、うっかりしてゐる時の全くないのも、つくろひに過ぎやうし、そこでこそ、幼児教育は六かしいものと、昔も今もいはれるのである。